

自然保護運動が国内ばかりではなく、国際的にも盛んになってきた現在、これと併行するように観光開発が登場した。観光開発は、これまでに世にあまり知られていない美しい景観とか交通不便な、いわゆる秘境を万人が楽しむことができるように開発するのが目的で、結構なことである。

ところが多くの観光開発の事業は、開発によって収益を得るための一つの企業で、自然保護はむしろ第二の問題としてとり扱われている。だから観光開発によって、自然がかえって破壊を招いた例は少なくない。

観光開発が一つの企業であつてみれば、利益に反することには手をつけるはずがない。なるべく多くの観光者を誘致する工夫をこらすが、施設にも運営にも不利な投資はしない。

観光開発は人類の貴重な遺産であり、国民共有の財産である自然を、保健のため、またリクリエーションのためになすべきであるから、都道府県または国が主体となつてなすのが普通で民間企業に委す場合は厳格な規制を設け、公共のためになす必要がある。

観光開発を計画するに当たっては、自然保護に関する権威のある専門家の意見をじゅうぶんに参照し、遠い将来を見通して着手すべきである。およそ自然界の現象は、一年や二年で変化がはつきり現われるものではない。人々の認識しない間に徐々に進行し、数年ないしは十数年の後に結果が出る。しかし、そのときは多くの場合、復元が不可能になつたときである。

このような自然界の変遷は、一年ごとに更新する官庁や会社の会計年度と、一致しないことのほうがむしろ多い。会計年度に支配されない専門家の、長期計画によらなければ、解決が望めない。そこで官庁の行政の外廊の委員会とか、民間人と官庁協力による自然保護に関する協会のごとき団体の発達が望まれる次第で、これら団体のあり方も自ら明らかである。

(副会長)

近年の観光開発と自然保護

犬 飼 哲 夫

